

平和記念だより

平和を語るつどい。

憲法記念平和映画祭

◆編集・発行/高松市役所 人権啓発課 平和記念係
◆連絡 先/高松市番町一丁目8番15号
TEL:087-839-2293 FAX:087-839-2291



5月24日(土)、高松市役所13階大会議室にて、
「平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭」を開催しました。



第1部「平和を語るつどい」では、昭和20年7月4日、当時6歳(国民学校1年)で高松空襲に被災した水野忠彦さんに空襲体験談をお話いただきました。

被災当時栗林町に住んでいた水野さんは、7月4日未明、生木を裂くような音で目が覚め、父親は空襲警報発令と同時に会社の方へ駆けつけ、母親は病気で入院中の兄の付き添いで末の妹を連れて不在だったため、当時高校3年生と1年生の姉に連れられ、3歳の妹と一緒に乳母車に乗せられた状態で着の身着のまま避難したそうです。

姉のとっさの判断で水田がある東へ逃げることになり、高松一中(現在の高松第一高等学校)正面玄関前の幅3メートルほどの川に架かる石の橋の下で震えながら夜明けを待ったことや、避難先の母方の実家で大勢にもかかわらず受け入れてもらえたこと、栗林町の家が全焼したため借りた空き家で毎日野鼠や蛇が出て怖かったこと、毎日団子汁1食か2食の食生活であったこと、山を登っていたら機銃掃射に遭ったこと等、お話していただきました。

第2部「憲法記念平和映画祭」では、広島平和記念公園にあるアオギリの木の下で、たくさんの人々に被爆体験を語り継いできた沼田鈴子さんをモデルにした映画「アオギリにたくして」を上映しました。

上映にさきがけ、10フィート映画運動「にんげんをかえせ」の頃より沼田さんと交流のあるプロデューサーの中村里美さんから挨拶がありました。長時間の上映でしたが、席を立つ人もなく、涙を流しながら見入っている参加者も多くみられました。

■平和を語るつどい・映画祭の感想■

日常生活では意識することの少ない平和について深く考えることができた。自分自身20代で戦争について体験も記憶もない。だからこそ過去のことを知り、体験者の方々の話を聞き意識する努力が必要だと感じた。

(20歳代・男性)

中村さんの始めのお話がとても胸にしみました。ノコギリで足を切断することに直面した私です。その方は死にましたけど、忘れられません。とても良い映画でした。涙が出て止まらなかったです。

(70歳以上・女性 15歳頃空襲を体験)

亡くなった父の生家が宮脇町で空襲で焼けてしまったと聞いていました。今日の講師の水野先生も栗林町ということで、父も同じような町の様子を見たのだなあと、父を思い出しました。子どもの目で見た戦争のお話を分かりやすくしてくださいありがとうございました。

(50～60歳代・女性)

アンケートご協力
ありがとうございました。



自分たちの子どもにも観てもらいたい作品でした。今の私たちが平和を求める力が弱すぎると思うので、他人まかせではなくがんばろうと思います。

(70歳以上・男性)

戦争の話や爪あと等、直接お話を聞かせていただいたり、映画を見せていただきましたが、やはり戦争はよくないと思いました。

平和な時代、平和な国に生まれたことに感謝しなければならぬと思いました。世界から戦争がなくなることを祈っています。

(60歳以上・男性)

小学校1年の頃のことで覚えていることはあまりないという私に比べ、水野さんの空襲の記憶が非常に鮮明でいかにもすごいものであったか恐ろしいものであったかが想像されました。

(50～60歳代・女性)

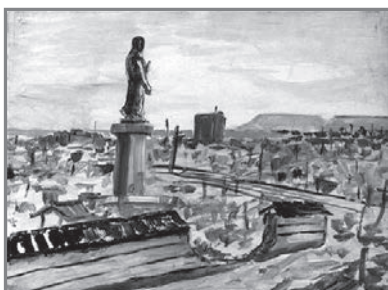


イベントレポート

□ 高松空襲写真展 □

【日 時】7月2日(水)～7月8日(火) 【場 所】まなびCAN 1階エントランスホール

今回は「市民が写した高松空襲被災写真」や「焦土と化した市街地」などの写真パネルのほか、高松空襲の絵画など、計30点あまりを展示しました。高松市街のコーナーでは、百十四銀行や旧四番丁小学校等、パネルに現在の様子を撮影した写真を添付するなどして比較できるようにしてみました。戦争を知らない世代が大半を占めるようになった今日、昭和20年7月4日、高松市が空襲を受けたという事実を知らない人にも、戦争は大昔の歴史ではなく、どこか遠い外国の出来事でもないのだということを認識し、改めて平和について考えていただければと思います。



□ 夏の行事予定

7・8月 ・高松市戦争遺品展

【日 時】7月28日（月）～8月1日（金） 【場 所】高松市役所1階 市民ホール
【内 容】高松空襲に関するパネル・遺品等の展示

高松空襲の説明や被害の状況、被災写真・空襲絵画のほか、
収束焼夷弾（親）の実物大レプリカ（約2m）・焼夷弾（子）の展示
や、写真週報や紙芝居のレプリカ、体験談・体験記等の展示も行
います。



▲ 四番丁国民学校正門



◀ 高松空襲で被災した釜
戦後も使用していた



今年は特にテーマを「忠孝の教育」として戦時下の教育に視点を当て、パネルのほか、当時の初等科の教科書や
文具も展示します。また、「さわれるコーナー」として、軍服等実際に触れられるコーナーも設け、説明書を見なが
らゲートルを巻いたり、体験してみることで当時の生活をより身近に感じられると思います。

・高松市平和を願う市民団体協議会主催事業 高松戦災・原爆写真展

【日 時】8月4日（月）～8月8日（金） 【場 所】高松市役所1階 市民ホール
【内 容】原爆の惨状を伝えるパネル等の展示

・同時開催 ユニセフ・パネル展



7月28日～8月8日

『アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使 中央アフリカ共和国レポート』

1960年の独立以来、相次ぐ動乱や独裁政治が続く中央アフリカ共和国。2012年12月、宗教勢力の対立の
形で始まった紛争の矛先は、子どもや女性にも直接的な形で向けられる事態に陥っています。

2014年4月16日～19日の3日間、アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使が中央アフリカ共和国を訪問、
帰国後、国内外の報道媒体を通じ、中央アフリカ共和国の窮状を訴えています。

探しています！



高松市では、引き続き戦争中の生活の様子を伝える資料等を収集しています。
特に、玩具、蓄音機、戦時中のことが記載された記念誌や自分史等ございましたら
ご一報ください。皆様からのご提供をお待ちしています。

ご寄贈いただいた資料は『戦争遺品展』等で展示するほか、一部貸出しもして
おりますので、詳細は人権啓発課・平和記念係までお問い合わせください。





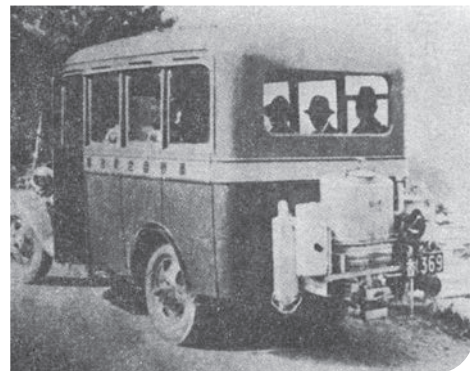
1937年日中戦争が始まると政府はガソリンの節約を呼びかけた。11月にはガソリン、重油などの燃料1割節約の方針を決定し全国に指示。翌1938年5月1日からは、配給切符制が実施され、タクシー3割、自家用車4割、トラックは2割の制限を受けることになった。また、1938年から1940年にかけて、代用燃料についての研究試作が行われた。例えば、アセチレンガス自動車、高圧ガスによる燃料半減、ナフタリン混入による1割削減、大豆油や鯨油の代用燃料方策などである。

しかし、木炭自動車が一番それに代わるものとして普及した。木炭自動車というのは、薪を燃料とし、車の後部に取り付けた窯で蒸し焼きにして、そこから発生するガスで自動車を動かすもので、まず東京や大阪のバス会社がこの木炭バスの改造をし始めた。

戦争の長期化に伴ってガソリンの統制はさらに厳しく強化されるようになり、1941年10月1日からは、乗用自動車のガソリン使用は、全面的に禁止されてしまった。このころになると木炭バスはもうどこの街角でも見受けられるようになり、お尻から火の粉をまき散らしながら走っていた。しかしながら、この木炭自動車はパワーが弱く、上り坂になると乗客は降りてバスを押すこともあった。

木炭車が姿を消し、ガソリン車に切り換えられるようになったのは、戦後の1951年になってからである。

木炭燃料化された高松乗合自動車（高松琴平電気鉄道株式会社・60年のあゆみ）▶



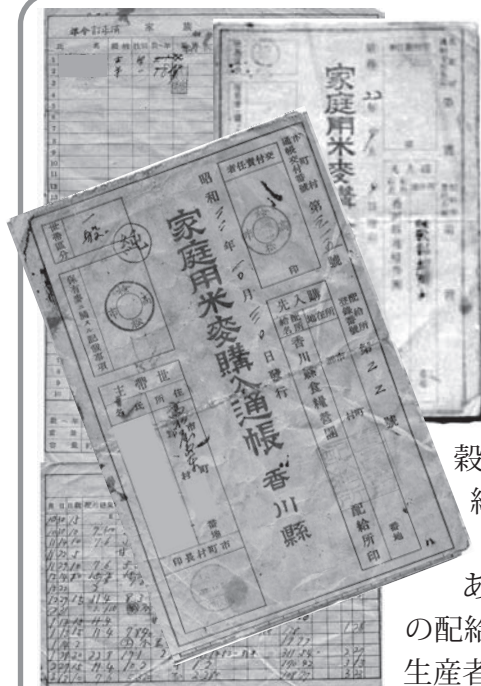
▶ 収蔵品紹介 45 【米穀通帳】

お米の配給割り当てを受けるための通帳を米穀通帳という。一人一日当たりのお米の割当量が印刷してあり、またその世帯の一日当たりの割当量が記載してあった。割当量は年齢、性別、職業によって異なり、また地域によっても若干の相違はあった。このお米の通帳制は、通帳と購入権とを併用したもので、家庭用米穀購入通帳、家庭用米穀特別購入券、業務用米穀購入券、船舶用米穀購入券、応急用米穀購入券の5種類があった。

この米穀通帳制度への経過をたどってみると、1939年4月12日公布の米穀配給統制法が源である。米穀の消費統制はすでにこの頃から米穀の逼迫した地域においては自治的に行われたところもあったが、まだ割当配給にまでは至らなかった。

本格的な配給統制は、1942年2月の食糧管理法の制定をみてからである。この法律によって米麦など主要食糧は全部国家管理の下に置かれ、その配給も直接国家の手によって統制されることになったのである。つまり、米麦の生産者は原則として政府に売り渡し、政府はこれを食糧営団をして貯蔵させ、営団によって総合配給を実施させるという配給統制の法的体制が確立したのである。

なお、この配給割当量は普通一般男女で、当初の1942年頃の平均は、330g(2合3勺3)だったものが、1945年7月には一割減じられ、300g(2合1勺)となった。



編集メモ

今回は、5月24日の「平和を語るとい・憲法記念平和映画祭」と「高松空襲写真展」の様子をお伝えしました。

7月28日から開催される「高松市戦争遺品展」では、パネルの説明に現在の様子を撮影した写真を添えたものもあり、より身近なものとして感じられるのではないかと思います。小・中学校の夏休みの宿題等のほか、平和について改めて考えるきっかけとしてお役立てください。

▼ ホームページアドレス（平和啓発の推進事業がご覧いただけます）

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/18976.html>

